

ときのあれこれ

Collection – ときコレ

(ヒトツバタゴ)

モクセイ科の落葉高木で、市の木に指定されています。「ナンジャモンジャ」の別名で知られ、よく似ている「トネリコ」(別名「タゴ」)という木が複葉植物であるのに対し、単葉であるために「ヒトツバタゴ(一つ葉タゴ)」と名付けられました。

国内では長崎県対馬北端、岐阜県木曾川周辺、愛知県の一部などに自生しており、国の絶滅危惧II類(VU)に指定されています。

5月から6月にかけて泉町の白山神社や織部の里公園などで、雪をかぶったような白い花を見ることができます。また、どんぶり会館前の県道66号線沿いは、ヒトツバタゴが多く植えられていることから「なんじゃもんじゃ街道」の愛称が付けられています。

「市の木」

特集 美濃焼のある場所

06 市政情報

市連合自治会の役員/不法投棄はやめましよう
/狂犬病予防注射と犬の登録
生涯学習館の愛称募集/市営住宅の入居者募集
/公共下水道を使える地区の拡大/はかり定期
検査

08 情報ひろば/土岐市公民館だより

10 ときめきの瞬間

12 読者コーナー

13 土岐市教育夢・絆/給食センター掲示板

14 男と女のいきいきコラム/健康ほっとLine

15 健康ガイド

16 陶史の森だより

市長コラム

技術の継承

土岐市は1300年の歴史がある陶磁器のまちです。戦国時代末期から江戸時代初期にかけては、京都や大坂、堺を中心に流行した「茶の湯」において、優れた茶陶を生み出しました。現在も国内最大の陶磁器生産量を誇ります。

地場産業が長く続くには、その土地の自然条件や技術を持った人の育成が欠かせません。土岐市の陶磁器産業は、土や水といった自然と、製品を作る高い技術を持った人たちによって支えられてきた、まさに地に根付いた産業です。

先日、伝統的工芸品産業振興協会から、美濃焼の作り手として表彰を受けた方が受賞の報告に来てくださいました。その方は40年もの間、一貫して黄瀬戸の作品を作り続けていらっしゃるそうです。弟子はとっていないものの若手作家との交流があるそうで、「教えて教えられるものではないが、盗んでいけばよい」と話す言葉には、自身の経験を後世に引き継ぐ思いが感じられました。

現代は時間の流れが速く、3年一昔のよう感じられます。私たちは今、先人の技術や経験を後世に継承するということを、いっそう意識していかなければならないと思います。

土岐市長 加藤靖也